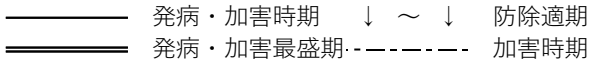
まつ



作型・病害虫名＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
葉ふるい病			―	―	―	―						
マツカレハ				↓～↓		═			↓～↓			
マツノマダラカミキリ						↓ ～	↓					
（マツノザイセンチュウ）	～	↓								↓	～	

葉ふるい病

留意事項

1 樹勢が衰えたりチッソ肥料を多用した樹では発生しやすい。

2 ドウグリン水和剤及びキノンドー水和剤40は、水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用は避けること。

防除方法

1 適切な肥培・水管理により樹勢を保ち、落葉は集めて処分し、伝染源をなくす。また株元に広葉樹を植えて地表からの胞子の飛散を防ぐ。

2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

・ドウグリン水和剤 ＜Ｍ１＞【1000倍　生育期／4回】

・キノンドー水和剤40 ＜Ｍ１＞【500倍　生育期／4回】

マツカレハ

留意事項

1 若齢期に防除する。

防除方法

1 10月中旬頃までに主幹にこもを巻くと、幼虫が越冬のために入り込むので、翌春幼虫脱出までにこもをはずし処分する。

2 越冬幼虫が活動し始める4月頃、幼虫発生期(9月)に下記の薬剤を散布する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞
【樹木類（除つつじ類､つばき類） ケムシ類　2000倍　発生初期／5回】

・マツグリーン液剤2 ＜４Ａ＞
【まつ(生立木) 100～250倍　3L／本(樹高10m)　幼虫発生前から幼虫発生期／5回】

・アクセルフロアブル ＜２２Ｂ＞
【樹木類(除さくら) ケムシ類　1000～4000倍　発生初期／6回】

・スピノエース顆粒水和剤 ＜５＞【樹木類　ケムシ類　5000倍　発生初期／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・スミパイン乳剤 ＜１Ｂ＞【1000～1500倍　－／6回】
・ゼンターリ顆粒水和剤 ＜１１Ａ＞ 【樹木類　ケムシ類　1000倍　発生初期／－】

マツノマダラカミキリ(マツノザイセンチュウ)

留意事項

1 マツノマダラカミキリによってマツノザイセンチュウが媒介される。
2 注入剤は薬害が出ることもあるため注入量に注意する。注入量は樹の大きさにより異なる。
3 グリンガード、グリンガード･エイト、グリンガード･NEOの成分酒石酸モランテルの総使用回数は1回。

防除方法

1 枯死木は春までに処分する。(枝、樹皮だけでなく、根株も処分する。)
2 できるだけ樹勢を旺盛に保つようにする。
3 下記の薬剤をマツノマダラカミキリ成虫発生の3ヶ月前(2月)までに樹幹にドリルで穴をあけて注入し、マツノザイセンチュウの増殖を抑制する。
いずれも処理薬液はラベルの記載どおりに行うこと。
・グリンガード、グリンガード･エイト、グリンガード･NEO ＜－＞
【まつ(生立木) ／ 1回】
4 成虫発生時期（6～7月）に下記の薬剤を散布する。
・スミパイン乳剤 ＜１Ｂ＞
【まつ(生立木) マツノマダラカミキリ成虫 150～200倍　3L／本(樹高10m)
成虫の発生初期及び発生最盛期直前／6回】
・マツグリーン液剤2 ＜４Ａ＞
【まつ(生立木) マツノマダラカミキリ成虫　60～100倍　3L／本(樹高10m)
成虫発生直前から発生初期／5回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。